

第13号

2008年3月15日発行

Community Currency Toda Oar

# TODA オールネット

出会い ふれあい 支え合い

地域通貨

戸田  
オール

<http://www.toda-oar.net>

Tel&Fax.048-421-3709

地域通貨戸田オール運営委員会

戸田市ボランティア・市民活動支援センター内

335-0022 埼玉県戸田市上戸田1-18-1

戸田市役所敷地内

## オールの5年間を振り返って

運営委員の座談会 …… P.2

サステナブルなまち …… P.4

市勢要覧が出ます

学校訪問 美谷本小学校 …… P.5

団体紹介 いきいき虹の会

町会めぐり 笹目5丁目町会 …… P.6

市民活動講演会

雪割草（ミスミソウ）

## TODA オールネットとは……

次号は2008年6月15日発行予定です

戸市内全域を対象に行う地域通貨戸田「オール」を幅広く皆さんに理解していただくために発行するものです。もちろん、それだけではなく各市民活動団体の活動状況、また市役所など公的機関からの告知、各地区ごとのちょっとしたニュースをご紹介します媒体です。戸田市役所コミュニティ推進課と各町会の御協力により、市内全戸配布を行います。

私たちは、この「TODAオールネット」が、皆さんの生活をもっと楽しくするような戸田市のタウン紙になるよう頑張ります。カラー版のオールネットが <http://www.toda-oar.net/> メニュー「TODAオールネット」からご覧頂けます。

# 原点はコミュニケーションとしての“道具”

～ オール運営委員による座談会～

「地域通貨戸田オール」の5年間を振り返る

“これまで”そして“これから”

もう5年、まだ5年……この5年間にはさまざまな紆余曲折がありました。節目の年として、ここで一度振り返り、原点を見つめてみました。そして、6年目に向けて「かかわること」で「楽しむこと」を再確認した次第です。



平成16年 ふれあい市 in コンパル祭り開催

運営委員会は月1回、市民活動支援センターTOMATOで開かれます。この日は、新メンバーや見学者がいたり、ニッケン建設(株)さんのタウン紙「ぐる～む」の取材が入ったりと、にぎやかな顔ぶれでした。前列左から、高本副委員長、中島委員長、荒川、後列左から、林、水内、園田(戸田市商工会) 早川(コミュニティ推進課) 森、田村和仁さん(「ぐる～む」編集部)、白川十一さん、大森(コミュニティ推進課)。

## まずは、それぞれの5年間の想いをお願いします。

中島 思い起こせば、平成14年7月に「地域通貨で市民活動を楽しむ会」(以下「懇話会」という)が立ち上がり、15年11月から半年間、笹目地区で第一次試験運用がスタート。啓発活動で10町会を回って説明会を開きました。16年7月からの第二次では市内の商店でも使えるようになり、皆様のご支援で、ここまでこられました。

高本 正直言って、地域通貨は奥が深く、常にもがいている状態です。かなり告知しているにもかかわらず、浸透度は足りないと思います。川口の市会議員さんの視察で「5年間よくやってきましたね」と感動され、自分自身もその気持ちはあるけれど、今は途中段階。まだまだこれから、という感じです。私が懇話会に参加したのは、新しいマンションに引っ越したばかりで知り合いがいなくて、地域通貨でコミュニケーションが図れればと思ったのがきっかけですが、その点は残念ながらまだ実現できていません。

園田 懇話会で集まったとき、地域通貨を理解するのは難しかった。第二次から換金できることになって、商工会としてもからみやすくなり、商工祭などのイベントでオールを使ってみると、とても便利なツールだということがわかりました。

森 私も懇話会からの参加です。商業者にとっては、地域貢献が何より大切です。オールも最初は

「肩たたき券」的なもので、商人にはなじみが薄かったですね。よくぞ5年も続いたと思います。地域通貨というツールで、皆さんと知り合えたことが一番。いろいろな交流が出てきました。

早川 私は途中から参加で3年目になります。委員の皆さんの元気なパワーは衰えないので、戸田市なりのやり方をこれからも模索していきたいと思います。継続は力なり、ですね。

大森 私は2年目です。オールを使った、子供たちの「おしごと体験隊」(商工祭)は、見ていて本当に楽しそうです。市民からは「tocoバスや駐輪場で使えばいいのに」という声も出ているようです。

水内 私は第一次の終わり頃からの参加で、ちょうど換金性について議論していましたね。エコラ



平成16年美笹さくらまつりに参加  
オールも使えますよ

イフDAYにオールを取り入れて、最初は子供たちも使い方がわからなかったようですが、景品交換会を始めて、とても喜ばれました。

最近では、オールを使って、福島県の旧大信村（戸田市の友好都市）の野菜販売会を始めましたが、いずれ全市的に広めていきたいと思っています。

荒川 平成15年に笹目のコンパルで開催した「オールDEバザール」は盛り上がりましたね。「おしごと体験隊」もそうですが、私たちが楽しいことは、まわりの人も喜んでくれる、と実感しました。



平成19年商工祭 おしごと体験隊

## オールは何を目指して始まったのでしょうか、そして、その目標はブレていないのでしょうか？

森 懇話会で最初に話したのは「私たちが目指したいのは、地域通貨がなくてもやっていける世の中」、つまり「お互いさま」の気持ちを広めたいということでした。もちろん地域通貨は便利なツールではあるけれど、今、運営委員会としては「広めること、使うこと」が目的になっているような気がします。

園田 市民団体どうしの交流にも使ってもらっていますが、まだまだ...という感じですね。そこを強化していきたいのですが。ただ、エコライ

フDAYや「おしごと体験隊」など、小さな芽がいくつか出ているのはうれしいです。

森 その小さな芽を育てることも大切ですね。それぞれの団体に自由な使い方をしてもらいたいけれど、運営委員会として何をすべきなのかを考えていかなければ。

水内 私は「地域通貨＝緩衝材」という考え方で。いろいろな考え方があっていいと思っています。ここまで続けているのは、少しずつ進んでいるからで、市民からの期待度も高いのでは。

## 最終的には、どういう形が望ましいと思いますか？

中島 市民活動支援センターを核にして、協働を進めていくために何かできないか、と考えています。

水内 市民の皆さんには、とにかく一度使ってもらいたいです。公民館やお祭りで気軽に使えるようになるといいのですが。

林 今回が初参加ですが、個人的には数年前から地域通貨に興味を持っていました。地域通貨と言うと、「通貨」という言葉から報酬のイメージが強いのでは。もちろんその側面もあるけれど、そうすると地域通貨の魅力は半減してしまいます。

こちらの説明が足りないと、「通貨」のイメージが強くなってしまいます。地域通貨は、地域にかかわる道具、絆づくりのきっかけだと思います。オールを通して、大人と子供、お店とお客さんの間にコミュニケーションが生まれるといいですね。

白川 私は戸田に引っ越してきて5年目で、きょうは運営委員会を見学させていただきました。ひとつひとつの活動を積み重ねて、市民に理解してもらおうことが大切なのではと思います。

荒川 森さんと同様に、私自身もオールの活動を通して地元知り合いがたくさんできたことで、生活がぐんと楽しくなりました。難しいことは考えず、そういう楽しさを伝えていければ、と思っています。

高本・荒川 個人的な夢としては、オールが使えるコミュニティカフェを市内で開きたいです。

中島 5年という区切りの時期でもあるので、市民は地域通貨に何を期待しているのか、原点に立ち返って、これからを展望したいですね。

ありがとうございました。（荒川で）



平成17年 地球に優しいお買い物キャンペーン  
レジ袋不要のお客様に地域通貨を渡す石塚商店さん

# 戸田市がサステナブル都市として全国3位に

自治体の評価は、どのような視点から見るのかによって、さまざまな結果が導き出されます。

今回、戸田市が「サステナブル都市」として全国3位になったことは大きく報道されたため、既にご存じの方も多いと思います。これは新聞社が実施した調査によって、経済の活力と環境の良さという両面から地域づくりに取り組んでいる都市をランク付けしたものです。ちなみに「サステナブル(sustainable)」とは「持続可能な」という意味の英語です。何かに取り組む時にはスタートダッシュも大切ですが、やはりキチンと効果を出すためには継続して取り組むことができるかが鍵になります。

このため、「環境に配慮した地域づくりへの取り組み状況と、これを持続できるかどうかを裏付ける財政は豊かであるか。そして、安全・安心で暮らしやすいといった社会安定度はどうか」という視点から調査した結果が全国第3位でした。そのほか、部門別では環境保全度で第5位、経済・財政では第3位という好成績を

残しています。

ただし、新聞社が独自に一部データを収集してはいますが、ほとんどは各自治体が回答したアンケート結果に基づいていますから、この評価はあくまでも一つの側面に過ぎないとも言えます。しかし、環境を軸にした良好な都市空間を創造できる器は存在しているということは確かですね。あとは、その条件をどのように利用して、どのようなアクションを起こすことができるのかは、私たちと行政とのパートナーシップにかかっているのではないのでしょうか。市内には多くの環境団体が活躍していますが、良好な環境を目指すためには、もっと多くの方々の支援と協力が必要になると思われます。

環境保全を促進するための応援ツールとして、人と人をつなぐ地域通貨戸田オールを皆さんがさらにご利用いただけるよう、これからも地域通貨戸田オールの普及・啓発に努めていきたいと思えます。  
(荒川ゆ)

## 戸田を再発見～「戸田市勢要覧2008」が発行されます～

3月31日に、4年に一度作成される「戸田市勢要覧2008」が各家庭に配布されることになりました。今回は、その制作担当である秘書広報課の佐藤健治さんを訪ね、その内容をお聞きました。

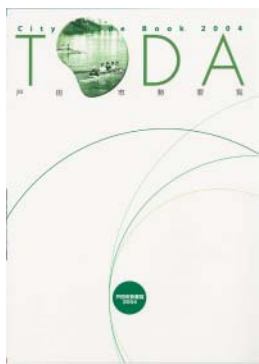
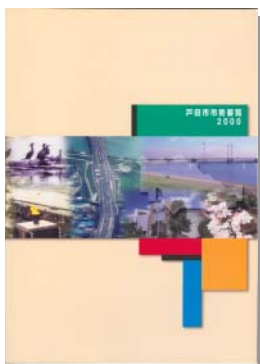
「今回は文字を極力減らし、ビジュアル重視にしました。オールカラーで36ページ。従来よりもページ数を少なくしましたが、手軽に開いてもらい、『戸田にはこんなところがあるんだ』『戸田って結構いいじゃん』と思ってもらえれば幸いです」

課内のスタッフが1年がかりで市内各地を探訪し、季節と風景を撮りためたスナップが満載とのこと。

「私が撮影したものだ、夕焼けをバックにオールを漕いでいる学生の写真が気に入っています。市内で生まれ育った私ですが、改めて戸田の街中にある緑、水というのはきれいだなと実感しました」

戸田を紹介しつつ、かつ再発見できる内容になっているとのこと。早く見てみたいものです。

「市内で活躍されている人々にも登場していただいています。熱心に市民活動に取り組んでいる皆さんのパワーを感じ、ますます戸田市が元気になっていっているのだと実感しました。ぜひ、楽しみにしてください」(早川)



◀ これまでの市勢要覧。  
左から 1996年、2000年、  
2004年発行です。

# 戸田市ボランティア・市民活動支援センターTOMATO登録団体紹介



## いきいき 虹の会

代表 安部 将治 さん  
事務局 武内 三枝子 さん

「いきいき 虹の会」は、主に特別養護老人ホームや戸田市喜沢南周辺で活動、施設の入居者と子どもたち、市民グループ、商店街や周辺住民の方々と知り合い、共に学び、助け合い、ふれあう活動を通じて、住み慣れたまちでいつまでも“いきいき”と暮らしたい。優しさのあるまちづくりを進めたい。そんな思いを実現するために活動を進めているそうです。

活動はさまざま、施設の植木への水遣りボランティアを始めとする清掃活動、ママを対象にバレエストレッチなどを行う「ママのごほうび講座」、料理教室などなど。定期的に施設の交流スペースでイベントを企画し、入居者と交流を深めているとのこと。クリスマスには代表の安部さん

がサンタさんに変身、会員たちがハンドベルの演奏を



して、楽しいひとときを過ごしたそうです。

お二人に「地域通貨戸田オール」についてお話を伺いました。「いきいき 虹の会では、“オール基金”を活用し、ボランティアに協力いただいた方に戸田オールをお渡ししています。会費も戸田オールで支払えるんですよ。今度、会のみんなで、たまった戸田オールを使って食事をしようかという話も出ているんです。」と、オールの循環にも積極的にご協力いただいていた。

虹のように“人と人とを繋ぐ架け橋”として、人にもまちにも優しい「いきいき 虹の会」。これからの活動が楽しみです。（大森・矢作）

## 学校訪問「おじゃまします!!」 Vol. 8

戸田市立美谷本小学校 鷲谷三義校長



美谷本小は、明治6年開校という戸田市で一番古い歴史を持つ小学校。校庭には大きなケヤキの木が1本、児童を見守るかのようになっています。玄関に入ると、なんとも懐かしい木の廊下です。そんな美谷本小の鷲谷校長先生に楽しいお話を伺ってきました。

美谷本小は自校式給食ならではの、残さないための工夫をしていました。野菜嫌いの児童が多いため、献立の「野菜サラダ」を「いきいき健康サラダ」に変えたり、「今日のメニューは 年生のリクエスト」と定期的にリクエスト献立にしているそうです。リクエストしたものが給食に出るっていいですね。もう一つ面白いのが、給食を作っているところを窓の外から覗けるように台が設置してあることです。遊び心をくすぐられ、思わず覗いてしまいました。作っている方の御苦労が見られるのもいいですね。



美谷本小は歴史ある学校だけに地域に密着して、毎年PTAを

中心に行なう「ふれあいバザー」は地域の方の協力もあり、大盛況なのだそうです。昨年は、小学生では珍しい「金管バンドZT」を結成し地域デビューをしました。3月9日の「ふれあいコンサート」にも出場し、これから益々の活動が期待されます。小学生の金管バンド、かわいいですね！地域の皆さんと共に応援しています。（高本）

Zelkova Tree (ケヤキの木)の頭文字をとったもの

## 町会めぐり、人めぐり Vol.13

～ 笹目5丁目町会長 中島 武利さん～  
もっと暮らしやすいまちを目指して



今では市内全域で利用されている地域通貨戸田オールですが、最初の1年目は笹目地区に限定して試験運用をしました。その際には多くの町会にご協力をいただきましたが、その中でも笹目5丁目町会

は「地域通貨推進委員会」を立ち上げ、独自のイベント等を開催していただきました。今回はそんな笹目5丁目町会を訪問し、町会長の中島武利さんにお話を伺いました。

「笹目地区が美笹村であった頃、稲刈り後の笹目小学校の運動会、笹目神社の祭礼などは地域全体の催事として大変盛り上がりました。地区が新大宮バイパスの開通で分断された感がありながらも、依然として強い結びつきがある理由だと思っています」と中島さん。

笹目5丁目町会の特徴について、まず組織がしっかりしている。以前から文化部や防災部をはじめとして5つの部があり、それぞれが責任を持って事業を担当しているとのこと。「地域の方々からは積極的なご協力をいただい

ます。ですから、町会運営は円滑に行われていますね」と話されている。

そのポイントをお聞きしたところ「情報をキチンと伝達し共有すること。四役部長会議や理事会が夫々概ね月一回ずつ開催し、なるべく文書で主旨や目的を伝えていきます。情報がうまく伝われば、みんなが動きやすくなるし、それがタタキ台になって、もっと良いアイデアが出ることもある。しかし、会議資料が多すぎることも避ける為、今後はプロジェクターを利用したい」とも話されていました。

とにかく手間を惜しまず、工夫が絶えない中島さんの行動力に圧倒され続けました。最後に「中島さんを地域の活動に駆り立てている原動力は何ですか」という質問をしたところ、「えっ?!だって、自分たちが暮している地域を少しでも良くしたいと思って行動することは当然でしょ...」。

地域通貨について「toco バスなどで利用できるとか、本来の主旨からは若干外れるかも知れないが、戸田独自のカラーでやってもいいのではと思う。それとコーディネーターの態勢強化が必要だと思う」というアドバイスをいただきました。

これからも笹目5丁目町会の活動には、さらに期待が高まりました。(早川・矢作)

## 地域コミュニティ・市民活動講演会が開かれました

2月23日(土)戸田市大会議室で伊藤光造氏を招き「元気な地域コミュニティにむけて」と題し、戸田市、戸田市コミュニティ推進委員会を始め5団体共催による講演会が開かれました。

その中で、町会のルーツは昭和15年内務省訓令第17号から始まった。コミュニティは近隣地域社会であり、近隣とは歩いていける範囲(小・中学校区くらい)。地域社会は暮らしに関わる人の世界と言われました。また、コミュニティはご近所の高齢者や子供たちの安全を担えるのがよりよいということから災害を核にしながら自主的な取り組みで近所づきあいを図っている

事例や、町会の規約を見直し、副町会長に30歳代～70歳代まで各世代から1名選出するなど今までとは違った取り組みで「自分達のまち」と言う参加意識を出しながら加入率も集金率も100%と言う事例など具体的な内容を紹介。

暮らしの魅力度は地域コミュニティの力と行政サービスや民間サービスのバランスにより成り立ち、犯罪の増加や空地の減少はそのスキマに生じてきていると、地域住民の参加によるコミュニティの活性化が大切と話されていたのが印象的で、地域通貨運営委員会も一緒にまちづくりに協力していきたいと思いました。(森)

【法人会員】 ニッケン建設(株)、戸田中央総合病院、ファミリーマート田中上戸田店、(有)古河屋(こが屋文具)、(株)平和不動産、戸田市商店会連合会、戸田市商工会、戸田市商業協同組合、戸田中央産院、中島孝雄税理士事務所、サポートセンター・ウィング、美笹商店会、(株)全通、(有)セルフ、(株)アイ・ライフ、(有)三京、戸田中央リハビリテーション病院、須藤歯科医院、(株)富岡製作所、喜沢一丁目商店会、(株)工房、五葉建材(株)、(株)池田紙工(株)KNDコーポレーション、(有)シーレックス、(有)福寿 (敬称略・順不同、平成19年5月1日現在)